

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393200171		
法人名	株式会社 ナンプ		
事業所名	グループホーム奏 幡豆(かなで はず)		
所在地	愛知県西尾市西幡豆町浜田36-1		
自己評価作成日	令和 元年12月 1日	評価結果市町村受理日	令和 2年 3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JivogvoCd=2393200171-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和 元年12月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者、職員がお互い様、助け合いの生活。毎日いろんなことがあっていい当たり前の暮らし。今この時間が大切な利用者様へ、今日も幸せだったと思っていただける施設でありたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者にとって自由で自然な環境、ありのままの毎日を楽しむことを基本としている。「寄り添い、落ち着いた、支え合う暮らし」の理念に基づいて、職員は利用者が自分なりの居場所で自分なりの時間を過ごすことができるよう心掛けて支援している。
 地域との交流も深まり、地元の保育園との関わりは、利用者にとって大きな喜びと生きがいになっている。また、利用者の得意なことが披露できるような場面をつくる(イベントで利用者が詩吟を吟じる)など、利用者が「主人公となれる」場面づくりを意識した支援をしている。
 来訪者も多く、毎日2~3組の訪問がある。島出身の利用者は渡船場の切符売り場の看板娘であったことから、複数の島民が利用者のもとに遊びにやってくる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を基に助けて上げる側ばかりではなく一人の人として当たり前の暮らしを支えるように努めている。	自由で自然な環境支え合うことを基本とし、個人を尊重したあたりまえの生活ができるよう心掛けている。その結果として転倒や骨折が多発したが、反省を活かして、自由と安全を担保する支援を目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園の運動会への参加、散歩の際近隣の方と会話しているが、十分とは言えない。	地域の保育園の運動会への参加や、園児をホームに招き遊戯を披露してもらうなどの交流がある。利用者から手作りの感謝状を贈るなど、交流は利用者にとっての楽しみ、生きがいの一つになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で、認知症について勉強会で(事業所内外)学んだことを伝えたり、家族からの相談等に対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の様子や運営状況を報告しています。様々な質問、助言を基にできることは実践できるように努めています。	運営推進会議を2ヶ月ごとに開催している。行政、地域包括支援センター、地区の代表者、家族、利用者が参加している。運営状況の報告に続き、災害対策などについて情報交換を行っている。	目標達成計画の進捗や達成状況などについても報告し、会議参加者による評価・検討が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議での情報共有しています。事故報告書を提出時、市町村へ対策、防止策について相談、ご意見を頂いています。	市の担当者とのやり取りは主に本部が行い、必要な情報はホームと共有している。事故報告等は支所に提出し、相談が必要となった事例については、その都度連携をとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束勉強会を年4回実施。職員の意識を高めることにより、過剰な施錠等はせず、距離をおいての見守りや、自由に行動できるように 職員の力量向上を目指しています。	自由を尊重する理念に基づき、拘束は行っていない。転倒や転落事故が起きることも想定して対応しているが、夜間の転倒事故については課題となっている。委員会は3ヶ月に1回の頻度で開催され、委員が中心となって勉強会も実施されている。	転倒や転落事故を怖がる余り、極端に「安全」が優先され、理念に基づく「自由」が失われる事がないような取り組みを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会を実施。会社全体でも虐待については重要視しており職員への周知を徹底しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、ケアマネは理解しているが、職員全体での学ぶ機会がなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約の条件等理解していただけるように説明している。家族が不安に思うこと(病院、入院、重度化等)についてできないことを伝えて理解して頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、家族会(年2回)、又家族も気軽に足を運んで頂いていますので、意見、要望をお聞きして日々の業務、ケアに取り組んでいます。	家族会は年2回開催されている。ホームだよりも定期的に発行され、情報が提供されている。職員は日頃の面会などを通して家族とコミュニケーションを図り、意見や要望などを聴くよう心掛けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、朝礼、カンファレンス等で職員の意見はとても大切。又、利用者の困りごと、問題点については迅速な対応を心がけている。	職員会議は月1回実施されており、パート職員や夜勤者、非番の職員も参加する。職員雇用は安定し、管理者と職員とは良好な関係性がある。年2回の面談なども含め、相談などしやすい環境がある	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価を基に実績、努力していることは、報告している。職場環境等についても改善の必要性があれば、上長へ意見を挙げています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	把握はしている。法人内外の研修もできるだけ参加できるように勤務調整に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グルーホーム連絡協議会、外部研修での職員交流会へはできるだけ参加しています。十分ではないが、他の施設との情報共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が安心して生活して頂けるためにも、細かな情報を基にサービスを提供している。特に施設での生活に慣れるまでは側で見守れるように意識しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族は離れることにより心配事も多く初期の段階では連絡、方向を密に強めます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時、入居時、ケアマネからの情報から支援体制の準備に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が安心して生活して頂けるためにも、細かな情報を基にサービスを提供している。特に施設での生活に慣れるまでは側で見守れるように意識しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人が役にたつことにより生きている実感が持てるように寄り添っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院、病院、お墓参り等、家族の協力を得ながら続けていけるように支援しています。	元教師のもとに、教え子が訪ねて来たり、近くの島からの利用者（渡船場の元看板嬢）を、複数の島民が訪ねて来る。家族の協力を得て、馴染みの喫茶店に通うことを楽しみにしている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者は自分から輪に入ることは難しいため孤立しないよう常に気配りしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された家族から今度ここへ移った。亡くなった。等の連絡いただけることもあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思い、又、言葉では表現できない意向を くみ取り計画書の作成に努めている。	会話や日常の支援を通して思いを汲み取り、介護記録に記して共有している。「詩吟をやりたい」という利用者の思いに応え、イベントの中で披露してもらった。本人だけでなく、家族や職員にも感動的な場面となった	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のサービス利用時、在宅での様子をケアマネ、職員、家族から情報収集し、性格、生活スタイルの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録のみではなく、一日の時間軸表に気づいたことは何でも書き込むように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チームで支えあうための話し合いを重ね、3か月毎のモニタリングにより日々の変化に対応できる計画書を心がけています。	定期的・随時にカンファレンスを行い、利用者の状況の変化を把握して介護計画に反映させている。アセスメントやモニタリングを定期的実施し、家族や利用者の思いを反映させるよう心掛けている。	「本人の思いを叶えよう」を基本に、個別ケアを展開している。「今まで通りお酒を飲みたい」との思いが介護計画に入っていた。さらに個別性のある計画が増えるよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録、職員からの意見等により、介護計画は柔軟に対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	型にとらわれず、本人が必要としていることに対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のAコープ、顔見知りの民生委員のボランティアさんとの関わりによりご自分から話しかけられたりされています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の往診医の協力もあり、電話での相談、診察が必要な時は迅速に対応してもらっている。 他科受診も主治医からの情報提供により、連携がとれています。	協力医、歯科医の往診が月2回ある。訪問看護も月2回の契約であるが、必要に応じての対応も可能である。他のかかりつけ医を希望される場合や専門的な医療が必要となった場合は、原則家族対応である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診日は訪問看護師が立ち会い、職員からの情報をまとめ主治医と相談している。往診日以外でも電話での相談ができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されたらこまめに様子をお聞きして、退院へ向けての準備を整えるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化については契約時に説明しているが、本人、家族が施設での生活を望まれる限り、できる範囲で支援する方向です。	重度化や終末期の対応について、利用開始時に利用者・家族の希望を確認している。看取り指針は作成されている。看取りの経験もあり、利用者の状況の変化に応じてチームで話し合い、方針を決定することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはあるが、訓練の実施はない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を実施。水害等のリスクについて自治会、市と話し合いを行い、市からは台風の時など早めの状況確認を頂いています。	防災訓練を年2回実施しており、消防署から器材を借りて消火訓練も行っている。台風や水害などに備え、今までの体験を活かして水や食料などの備蓄を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者として尊重していれば必然的に失礼のない対応となる。常に意識して接しています。	利用者を人生の先輩として尊重することを基本としている。入浴や排泄などの際に、羞恥心から男性職員の介助を好まない女性利用者には、同性介助で対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己表現が難しい方、遠慮もあり思いを言われぬ方、様々ですが、個々の性格を知りしっかりと向き合い、ゆっくり傾聴できる姿勢で寄り添います。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人が主となり職員が支援するが基本だが、他の利用者の状態により希望に添えない場合が多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴、朝の着替え、外出、就寝時のパジャマや気温によっての下着等本人と相談しながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の意見も取り入れ、食事の準備も一緒に行っている。食事中も出来栄や味について談笑しています。	献立表は無く、担当者が利用者の希望も考えて調理している。利用者は準備や配膳などを手伝っている。当日は、職員の自宅からの差し入れのミカンを味わい、話題が広がった。近所から野菜の差し入れもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	季節の食材を使い、野菜中心の献立としています。水分についても日中、夜間と摂取量をチェックしています。体調にあわせてスポーツドリンクを提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できることはご自分でやって頂き、不十分なところは本人に確かめながら支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居時リハビリパンツやパットを使用されて方も職員の支援により布パンツへ変更して頂いている トイレで排泄と布の感触で気持ち良く過ごせるように支援しています。	布パンツの使用と、トイレでの排泄を基本としている。排泄チェック表を用い、適切に排泄ができるよう支援し、リハビリパンツから布パンツに改善した利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘対策として、水分や食材の工夫、おやつに寒天等提供。生活の中ではあえて遠まわりに移動して頂き歩数を稼ぐ工夫もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴予定表に沿って入っていただいているが、気が進まない方や、時間を変えてほしい方等無理に押し付けないように支援している。本人の意向のみで不利益となる場合は声かけに工夫して入って頂くときのある。	隔日の入浴機会がある。入浴の順番などは、本人の意向を尊重して柔軟に対応している。入浴剤を利用したり、しょうぶ湯や柚子湯などの季節の湯も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないように支援しているが、体調や年齢、習慣を考慮して個々のケアに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居時の薬の内容、薬の変更、追加については処方箋を付けて申し送りしていますが、全てを理解しての支援はできていない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一日一回は話題の主役となって笑顔が見られるような支援に努めています。お天気の良い日外でお茶したり、散歩もします。外食の楽しんで頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	子供の頃遊んだ海が見たい。弘法さでお菓子がもらえる日にお参りしたい等、できるだけ希望に添えるように努めています。出かけることにより、地域の方が手を貸して下さることもあります。	年1回の弘法様(お祭り)へのお参りは、利用者の楽しみの一つとなっている。日常的には、近くの海岸や神社へ散歩することもある。本人の希望で、家族とともに馴染みの喫茶店に行くこともある。	散歩などの日常的な外出の他に、買い物や外食などを楽しむ機会を増やすことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	立て替えて希望の物を購入しているが、ご本人で所持されている方はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	かかってくる電話をつなぐ支援と届いたはがきをお渡ししています。こちらからの電話は難しい場合もありしていません。お手紙の返事も出せていません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中はできるだけ太陽の明かりにより電気を調整して時間の感覚と窓を開け外の空気を感じてもらえるように支援しています。季節の花を飾ったりして季節感を表しています。	共有部分は、明るく清潔で居心地の良い空間となっている。食後には、気の合う仲間とソファでゆったりくつろぐ姿がある。庭には菜園があり、野菜や花を育てている。季節の野菜や近くの民家の庭にあるミカンの木が話題となり、会話が弾んでいた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にソファがあり、皆さん気の合った方同士が寛がれています。横になりたい方には適度な時間調整で休んで頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いなれた布団、衣類等馴染みの物をできるだけ使っていただいています。	全ての居室に、クローゼットや洗面台が備え付けられている。たくさんの洋服の中から、お気に入りの洋服を披露してくれる利用者もあり、居室が自分らしい空間となっている	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	台所にあるお茶、手洗い、洗濯物干しの道具等分かりやすい場所に置き自ら活動できるように支援しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393200171		
法人名	株式会 C7ナンブ		
事業所名	グループホーム奏 幡豆(かなで はず)		
所在地	愛知県西尾市西幡豆町浜田36-1		
自己評価作成日	令和 元年12月 1日	評価結果市町村受理日	令和 2年 3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyouCd=2393200171-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和 元年12月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様、職員がお互い様、助け合いの生活。毎日いろんなことがあっていい当たり前の暮らし。今の時間が大切な利用者様へ、今日も幸せだったと思っていただける施設でありたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を基に助けて上げる側ばかりではなく一人の人として当たり前の暮らしを支えるように努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園の運動会への参加、散歩の際近隣の方と会話しているが、十分とは言えない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で、認知症について勉強会で(事業所内外)学んだことを伝えたり、家族からの相談等に対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の様子や運営状況を報告しています。様々な質問、助言を基にできることは実践できるように努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議での情報共有しています。事故報告書を提出時、市町村へ対策、防止策について相談、ご意見を頂いています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束勉強会を年4回実施。職員の意識を高めることにより、過剰な施錠等はせず、距離をおいての見守りや、自由に行動できるように 職員の力量向上を目指しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会を実施。会社全体でも虐待については重要視しており職員への周知を徹底しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、ケアマネは理解しているが、職員全体での学ぶ機会がなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約の条件等理解していただけるように説明している。家族が不安に思うこと(病院、入院、重度化等)についてできることできないことを伝えて理解して頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、家族会(年2回)、又家族も気軽に足を運んで頂いていますので、意見、要望をお聞きして日々の業務、ケアに取り組んでいます。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、朝礼、カンファレンス等で職員の意見はとても大切。又、利用者の困りごと、問題点については迅速な対応を心がけている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価を基に実績、努力していることは、報告している。職場環境等についても改善の必要性があれば、上長へ意見を挙げています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	把握はしている。法人内外の研修もできるだけ参加できるように勤務調整に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グルーホーム連絡協議会、外部研修での職員交流会へはできるだけ参加しています。十分ではないが、他の施設との情報共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が安心して生活して頂けるため、細かな情報を基にサービスを提供している。特に施設での生活に慣れるまでは側で見守れるように意識しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族は離れることにより心配事も多く初期の段階では連絡、方向を密に強めます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時、入居時、ケアマネからの情報から支援体制の準備に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が安心して生活して頂けるため、細かな情報を基にサービスを提供している。特に施設での生活に慣れるまでは側で見守れるように意識しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人が役にたつことにより生きている実感が持てるように寄り添っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院、病院、お墓参り等、家族の協力を得ながら続けていけるように支援してます。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者は自分から輪に入ることは難しいため孤立しないよう常に気配りしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された家族から今度ここへ移った。亡くなった。等の連絡いただけることもあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思い、又、言葉では表現できない意向を くみ取り計画書の作成に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のサービス利用時、在宅での様子を ケアマネ、職員、家族から情報収集し、性格、生活スタイルの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録のみではなく、一日の時間軸表に気づいたことは何でも書き込むように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チームで支えあうための話し合いを重ね、3か月毎のモニタリングにより日々の変化に対応できる計画書を心がけています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録、職員からの意見等により、介護計画は柔軟に対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	型にとらわれず、本人が必要としていることに対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のAコープ、顔見知りの民生委員のボランティアさんとの関わりによりご自分から話しかけられたりされています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	相談、診察が必要な時は迅速に対応してもらっている。他科受診も主治医からの情報提供により、連携がとれています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診日は訪問看護師が立ち会い、職員からの情報をまとめ主治医と相談している。往診日以外でも電話での相談ができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されたらこまめに様子をお聞きして、退院へ向けての準備を整えるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化については契約時に説明しているが、本人、家族が施設での生活を望まれる限り、できる範囲で支援する方向です。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはあるが、訓練の実施はない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を実施。水害等のリスクについて自治会、市と話し合いを行い、市からは台風の時など早めの状況確認を頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者として尊重していれば必然的に失礼のない対応となる。常に意識して接しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己表現が難しい方、遠慮もあり思いを言われない方、様々ですが、個々の性格を知りしっかりと向き合い、ゆっくり傾聴できる姿勢で寄り添います。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人が主となり職員が支援するが基本だが、他の利用者の状態により希望に添えない場合もあるが、業務優先にならないように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴、朝の着替え、外出、就寝時のパジャマや気温によっての下着等本人と相談しながら支援している。本人のこだわりもあるので本人の意見も尊重しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の意見も取り入れ、食事の準備も一緒に行っている。食事中も出来栄や味について談笑しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	季節の食材を使い、野菜中心の献立としています。水分についても日中、夜間と摂取量をチェックしています。体調にあわせてスポーツドリンクを提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できることはご自分でやって頂き、不十分なところは本人に確かめながら支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居時リハビリパンツやハットを使用されて方も職員の支援により布パンツへ変更して頂いている トイレでの排泄と布の感触で気持ち良く過ごせるように支援しています。3名の方がリハビリパンツから布パンツへ変更しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘対策として、水分や食材の工夫、おやつに寒天等提供。生活の中ではあえて遠まわりに移動して頂き歩数を稼ぐ工夫もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴予定表に沿って入っていただいているが、気が進まない方や、時間を変えてほしい方等無理に押し付けないように支援している。本人の意向のみで不利益となる場合は声かけに工夫して入って頂くときのある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないように支援しているが、体調や年齢、習慣を考慮して個々のケアに努めている。適度な休息時間を支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居時の薬の内容、薬の変更、追加については処方箋を付けて申し送りしていますが、全てを理解しての支援はできていない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一日一回は話題の主役となって笑顔が見られるような支援に努めています。お天気の良い日外でお茶したり、散歩もします。外食の楽しんで頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	子供の頃遊んだ海が見たい。弘法さでお菓子がもらえる日にお参りしたい等、できるだけ希望に添えるように努めています。出かけることにより、地域の方が手を貸して下さることもあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	立て替えて希望の物を購入しているが、ご本人で所持されている方はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	かかってくる電話をつなぐ支援と届いたはがきをお渡ししています。こちらからの電話は難しい場合もありしていません。お手紙の返事も出せていません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中はできるだけ太陽の明かりにより電気を調整して時間の感覚と窓を開け外の空気を感じてもらえるように支援しています。季節の花を飾ったりして季節感を表しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にソファがあり、皆さん気の合った方同士が寛がれています。横になりたい方には適度な時間調整で休んで頂いています。窓辺に椅子を準備して会話できる空間も提供しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いなれた布団、衣類等馴染みの物をできるだけ使っていただいています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	台所にあるお茶、手洗い、洗濯物干しの道具等分かりやすい場所に置き自ら活動できるように支援しています。		